

わが

いわきへの想いを共有し 「人づくり日本」の実現へ

いわき市は、福島県の南東端に位置しており、太平洋に面し豊かな自然環境と寒暖の差が少ない穏やかな気候に恵まれ、日本のフラ



フラシティいわき

文化の発祥地にもなった中核市です。

映画「フラガール」

で有名なスパリゾート

トハワイアンズをはじめ、J2・いわき

FCや日本三古泉に

数えられるいわき湯

本温泉郷、アクアマ

リンふくしまを含む

小名浜港周辺地区な

ど、豊富な地域資源

を生かした観光産業

をはじめとして、農

林水産業などの多様

な産業が営まれ、国

際貿易港である重要



いわきFC

な産業が営まれ、国際貿易港である重要

港湾小名浜港や常磐自動車道などの高速交通体系が整備された東日本有数の工業都市です。

エビデンスに基づく 学力向上策の推進

本格的な人口減少時代を迎える中、連鎖的に生じる課題の解決と地域の成長を促し、自立的なまちの力を生み出す原動力は、人の力にほかなりません。こうした考えの下、「人づくり日本」を政策の旗印に掲げ、全ての政策を押し進



学校カルテ（学校・学級ダッシュボード）

取りまとめ、現在、学力向上アドバイザーが公立小中学校全97校を訪問して具体的な指導・助言をしています。今後さらに学校カルテの機能と精度を高め、教職員向けのワークショップを拡充するなどしながら、学

めています。その中で最も注力している取り組みが、次世代を育てる人づくりであり、「学力日本一」を目指す取り組みです。令和4年度に、学力向上アドバイザーと関係指導主事で構成した「学力向上チーム」を発足させました。全国学力・学習状況調査などのデータを分析し、各学校の教

科学力だけでなく、非認知能力や学習方略などを「学校カルテ（学校・学級ダッシュボード）」として

行政Maas車両を活用 した市民サービスの提供

力向上の取り組みを一層推進していきます。また、不登校対策や特別支援教育の充実にも継続して取り組み、全ての子ども一人一人が安心して学べる多様な居場所づくりと特性に応じた教育環境の充実についても着実に進めていきます。



お出かけ市役所

通信環境などを整備した行政Maas車両を活用して、アウトリーチ型で市民サービスを提供する「お出かけ市役所」を実施して



市内の風力発電所の様子

東日本大震災および原子力災害により失われた福島県浜通り地域の産業の回復と、新たな産業基盤の構築を目指す
 「福島イノベーション・コースト」などの国家プロジェクトにより、再生可能エネルギーの導入が進められています。
 こうした中、本市は、風力発電の

風力発電メンテナンス 人財の育成拠点へ

います。具体的には、中山間地域などの集会所や公民館などを巡回し、住民票や税証明書などの発行業務、マイナンバーカードの新規申請業務などを提供しています。昨年度は、移動期日前投票所としての活用や、令和5年台風第13号に係るり災証明の出張申請受付なども実施しました。
 今後も、デマンド型による市民サービスの提供や、オンライン相談窓口の機能拡充など、さらなる進化を図っていきます。

導入拡大による幅広い経済波及効果を実感に取り込むため、関連産業の集積を目指しており、特に、メンテナンスを糸口とした市内企業の事業参入に注力しています。
 風力産業を支える人財の育成にも、学生などの将来人財と、社会人といった即戦力人財の両面から取り組んでおり、福島高専と連携した段階的かつ実践的な教育・体験プログラムの実施に加え、東京大学先端科学技術研究センターなどと連携し、国内初となるメンテナンス技術者の知識や技術力を認証する制度の構築も行っています。
 今後も、新たな産業の創造による「魅力的な働く場の創出」や、「将来を切り拓く人づくり」を通して、市内産業の復興を図るとともに、浜通り地域の復興・創生につながるよう、全力を挙げて取り組んでいきます。

「人づくり日本一」の実現に向けて

本年度は、政策の柱に「次世代を育てる」「命・暮らしを守る」「まちの魅力を高める」「豊かさを創る」の四つを掲げ、喫緊の課題へ対応しながら、中長期的な視点で

持ち、各分野におけるさまざまな取り組みに挑戦していきます。
 併せて、限りある行政資源を「課題の解決」と「未来に向けた投資」につなげ、そして、古い慣習や仕組み、職員の意識を大胆に変え、新たな価値を生み出していくため、市民サービスのデジタル化や業務の効率化、公共施設などの最適化、職員づくりなどに取り組み構造改革の動きを恒常化・加速

プロフィール

- ◆ 面積 1232.51 km²
- ◆ 人口 32万218人
- ◆ 世帯数 14万1319世帯



いわき市長
内田広之

〔将来都市像〕誰もが「住んで良かった、住み続けたい」と思える魅力にあふれた「いわき」

〔まちの特徴〕温暖な気候と豊かな自然に恵まれ、農林水産業、工業、観光業など多様な産業が発展しているまち
 〔特産品〕常磐もの（カツオ、メヒカリなど）、かまぼこ、サンマのみりん



干し、ウニの貝焼き、トマト、イチゴ〔観光〕スパリゾートハワイアンズ、いわき湯本温泉、国宝白水阿弥陀堂、アクアマリンふくしま、いわきFCパーク
 〔イベント〕いわきサンシャインマラソン、いわき花火大会、いわき七夕まつり、いわきおどり、フラガールズ甲子園

化させながら、柔軟で持続可能な行政運営の構築に向け、改革・改善の動きを力強く前進させていきます。
 今後も現場主義に徹し、変革を一つ一つ積み重ね、市民の皆さまに変化を実感いただけるようなまちづくりを進め、若者から高齢者まで、あらゆる世代がいわきに魅力を感じ、いわきを誇りに思うまちを「人づくり」で実現します。

※面積は国土地理院「全国都道府県市区町村別面積調」に、人口・世帯数は「住民基本台帳」による。

わが

人が輝き躍動するまち・浦安 —すべての市民の幸せのために—

浦安市は、昭和44年の地下鉄東西線開通以前は、東京都心部から約12kmと近接しているにもかかわらず、「陸の孤島」と言われた漁師町でした。

その後、東京湾の水質汚濁により漁業権を放棄し、「住宅地」「鉄鋼流通基地」「大規模遊園地」を目的とした公有水面埋立事業により市域面積は約4倍に拡大し、東京都心部から鉄道で約15分という利便性もあり、東京ベイエリアの主要

都市へと発展を続けてきました。

特に、昭和58年の東京ディズニーランドの開園は本市のイメージを大きく変え、その後、東京ディズニーシーや周辺ホテル群の形成によりアーバンリゾートゾーンとして、今や全国有数の知名度を誇っています。

量的拡大から質的充実へ

公有水面埋立事業による住宅地開発により、若いファミリー世代の流入が進み、人口は埋立事業以前の2万人弱から約17万人へと急激に増加しました。

開発を進めていた時代は、平均年齢も若く、高齢化率も低かった本市ですが、住宅開発が最終盤になり、特定世代の人口の偏りが大きいことから、高齢化が急速に進んできています。

加えて、人口増加に併せて昭和

50年代に集中的に整備してきた公共施設の老朽化も進み、本市は、まちを開発していく「発展期」から、まちを維持・更新していく「成熟期」を迎えております。

成熟期においても衰退することなく持続的に発展を続けていくためには、公共施設の維持・更新や行政サービス水準の維持を適切に進め、まちを開発する「量的拡大」から、市民の安全・安心、まちの活力や豊かさの醸成に努める「質的充実」に軸足を移していく必要があると考えています。

誰もが生き生きと暮らせるまちへ

子どもからお年寄りまで、誰もが住み慣れた地域で自分らしく生き生きと暮らしていける地域社会



親子で楽しく遊びながら子育て仲間と交流できる「子育て支援センター」

を創っていくことが大切です。

市では、高齢者の総合相談窓口である地域包括支援センターのサテライトを自治会集会所などで開設し、身近な場所での相談体制を構築するとともに、地域包括支援センターにスクールライフカウンセラーを配置し、親の介護と子育てという「ダブルケア」にも対応できるようにしています。

子育てしやすい環境の充実として、子ども医療費助成の高校生相当年齢までの無償化や小・中学生の学校給食費の無償化を行っている



東京湾を望む公園にはデイキャンプ場や広大な芝生広場があり多くの人が集う「総合公園」



浦安を流れるかつての漁師町・浦安のシンボルの存在「境川」



漁師町の浦安を再現した体験型博物館「郷土博物館」

ます。子どもたちの多様な学びの場の確保として、県立特別支援学校の開校に向け、千葉県と連携して取り組むとともに、学習意欲はあるものの学校に行けない生徒のために、千葉県内初となる「字びの多様な学校」の早期開校に向け取り組んでいます。

教訓を生かし 災害に強いまちへ

本市は旧江戸川の最河口に位置し、東京湾に面していることから、その歴史は水害との戦いの歴史でもありました。

千葉県と連携の下、護岸整備など高潮対策を進めてきましたが、台風の大規模化やゲリラ豪雨などに対応して

いくため、老朽化した排水機場、ポンプ場の更新整備を進めていくとともに、大型の雨水貯留管を順次整備していきます。

また、平成23年の東日本大震災では、液状



4年おきに行われる大小100基以上の神輿(みこし)と山車が繰り出す一大イベント「三社祭」

トゾーンの玄関口であるJR舞浜駅デッキの改修費用の一部に充てるため、本市初となるクラウドファンディングを実施したところ、多くの皆さまからご協力を

化により甚大な被害を受け、道路をはじめ、上下水道、ガスなどが市民生活に直結するライフラインが寸断されました。震災からの復旧とともに、今後想定される災害に備え、引き続き地籍調査事業を進めるとともに、緊急輸送路となる幹線道路の液状化対策や無電柱化に取り組んでいます。

世界につながる観光都市へ

東京デイズニールゾートを有する本市は、年間約3000万人が訪れる観光都市であり、この優位性をまちづくりに活かしていくため、観光関連団体と連携しながら、国際会議などMICEの誘致などを進めていきます。

令和5年度に、アーバンリゾー

いただきました。

行政需要は、常住人口のみで判断するのではなく、滞留人口を考慮し必要な施策を実施していくことが求められます。国際観光都市としてふさわしい行政サービスが提供できるよう新たな財源も検討しながら、都市基盤や救急医療体制の充実にも努めています。

すべての市民の幸せのために

市民の幸せを追求していくこ

プロフィール

- ◆ 面積 18・79 km²
- ◆ 人口 17万742人
- ◆ 世帯数 8万5090世帯

〔将来都市像〕人が輝き躍動するまち。浦安、すべての市民の幸せのために

〔まちの特徴〕国際色豊かな近代的な都市としての顔を持つ一方で、海や川と関わりながら築き上げてきた風情や人情味が漂う面を併せ持っています



浦安市長 内田悦嗣



〔特産品〕焼きアサリ、焼きハマグリ、つくだ煮、せんべい、焼きのり
〔観光〕屋形船、浦安三社(豊受神社、清瀧神社、稲荷神社)、浦安市郷土博物館、浦安市総合公園、アーバンリゾー
〔イベント〕浦安三社祭、浦安市花火大会、納涼盆踊り大会、浦安市民まつり、東京ベイ浦安シティマラソン

とが、行政としての使命であり、まちづくりの根幹であるという認識の下、これまで以上に市民一人一人がまちづくりの主体としての意思を持ち、相互につながりながら、まちづくりを進めていかなければならないと考えています。

誰一人取り残すことなく、すべての市民が幸せを実感できるまち「浦安」、その理想に向かって挑戦を続けてまいります。

※面積は浦安市の公表値に、人口・世帯数は「住民基本台帳」による。

わが

人・地域・自然が輝く 持続可能な交流都市を目指して

恵那市は、岐阜県南東部の東濃

地域に位置する都市です。地域の77%を山林が占め、東西に木曾川や矢作川が流れるなど、美しい山河に囲まれた自然豊かな環境にあります。近い将来、隣接する中津川市にリニア中央新幹線の（仮称）岐阜県駅が整備され、都心からのアクセスが良くなることが見込まれています。

住みたい田舎全国1位

本市は、月刊誌『田舎暮らしの本』（宝島社）の「二〇二四年住みたい田舎ベストランキング」において、全国「三万〜五万人未満の市」の総合部門、子育て世代部門、シニア世代部門の3部門で第1位に選ば



住みたい田舎ベストランキング1位

れた。これまでも高校生までの医療費無償化、75歳以上の方への1人1万円の公共交通利用券配布などを行ってまいりましたが、本年度は新たにこども園に通う3歳以上児の給食費無償化、小・中学校入学時における入学祝い金の支給、また50歳以上を対象とした带状疱疹予防接種費用の一部助成を開始するなど、市民に安心して生活していただける取り組みをさらに進めています。

避難所生活を快適に

本市では小・中学校の児童生徒から、避難所生活がより快適になるための改善点を提案していただく事業を行っています。

これまでの提案では、「体育館での生活は、季節によって負担が非

常に大きいため、エアコンを設置してほしい」という意見を多数頂いたことから、全ての小・中学校体育館に停電時でも使用可能なGHP式エアコンの設置を始めており、照明もLEDに変更しています。

また、本年度は児童生徒による宿泊を兼ねた防災キャンプを開催し、



小学生による避難所設営訓練

全ての時間帯における避難所の改善点を提案していただく予定です。
どこに住んでも
安心して生活を

市の北部にある飯地町は、人口561人（令和6年1月1日現在）と、市内で最も人口が少ない地域です。昔から地縁のコミュニティが強く、歌舞伎小屋である五毛座を中心に、町民一体で地歌舞伎などの地域活動が盛んに行われています。

本市は市内全域に光通信ケーブルが整備されており、どの地域でも高速通信が可能です。これを活用して飯地町の全世帯にスマート



スマートスピーカーを活用しての取り組み



城下町とラリーカー

©Rally Japan

昨年、自治体が主体となって初めての開催となるFIA世界ラリー選手権(WRC)日本ラウンド「FORUM 8 RALLY JAPAN 2023」が、愛知、岐阜で開催され、大会コースとなった本市では、7カ所の観戦エリアと3カ所の応

モータースポーツ推進と車文化にやさしいまちづくり

今後は、スマートスピーカーを使って買い物支援や遠隔診療など、中心市街地から離れた地域でも安心して生活ができるよう、ITの力を幅広く活用したいと考えています。



未来キャンパスでのプログラミング講座

恵那の食文化の魅力発信などを行うことを目的として民間商業施設内に開設した「恵那中央出張所 えなえーる」では、朴葉ずしづくり体験など、郷土に息づく発酵食品講座を定期的に開催し、先人が築き上げた発酵食品文化の継承と

持続可能なまちづくりの拠点を整備

援会場を設置し、3万1400人の方にご来訪いただきました。WRCは、世界に向けて本市の魅力を発信する大きな機会であるため、一年を通じて恵那をPRし、インバウンドの確保と地域の活性化を図るとともに、クラシックカーやオーナーズクラブミーティングの開催など、車文化に優しいまちづくりを進めています。



恵那市長
小坂 喬峰

〔市町村合併〕平成16年10月25日、恵

〔まちの特徴〕北に笠置山、東に恵那山があり、その間を木曾川、阿木川、矢作川が流れる山紫水明で豊かな自然に恵まれた地域

〔将来都市像〕人・地域・自然が輝く交流都市
『誇り・愛着を持ち 住み続けるまち』

- ◆ 面積 504.24 km²
- ◆ 人口 4万6775人
- ◆ 世帯数 1万9965世帯

プロフィール

ともに、発酵食品のブランディングを行っています。また、新たな学びの拠点としてえなえーる隣に整備した「恵那未来キャンパス」では、ITスキルを身に付ける講座や、オンラインによる専門的なセミナーを開催し、新しい時代の新しい学びの場を提供しています。両施設はSDGs未来都市である本市の持続可能な取り組みの拠点として、今後もさまざまな活動と情報の発信を行ってまいります。



〔特産品〕栗きんとん、五平餅、朴葉ずし、発酵食品、細寒天

〔観光〕恵那峡、中山道大井宿、岩村城跡と岩村城下町、日本大正村、坂折棚田

〔イベント〕恵那峡ハーフマラソン、ENAMのじのみのり祭、FORUM 8 RALLY JAPAN

点として、今後もさまざまな活動と情報の発信を行ってまいります。本市は10月25日に市制20年を迎えます。これまで「人・地域・自然が調和した交流都市」を目指し、市民一丸で取り組んでまいりました。この先も先人から受け継がれた豊かな暮らしを未来に継承する、持続可能な地域づくりを進めてまいります。

※面積は国土地理院「全国都道府県市区町村別面積調」に、人口・世帯数は「住民基本台帳」による。

わが

DXとシェアリング、公民連携を推進 多様な人材の「掛け算」による価値「共創」のまち

「市長テレワークの日」は coworkingスペースに「メイヤーズカフェ」が開店。午後3時ごろ、その日、その場所で働く皆さんが集まり、語らいが始まります。

古賀市の山あいにある薬王寺温泉の老舗旅館をリノベーションしたインキュベーション施設「快生館」。天然温泉付きのサテライトオフィスと coworkingスペースは、福岡県内外からのオフィスの進出、ドローンインでのワーク、企業合宿やワーケーションの利用が広がり、スタートアップ企業の関心も急速に高まっています。

古賀市役所はDXを推進し、早くからテレワークを可能としており、私自身もここで仕事をする機会があります。澄んだ空気の中、鳥の声や川のせせらぎを聞き、季節の移ろいを感じながら、働く。そして、ここで働く方々が同じ時間を過ごし、自然体で交流し、それぞれの経験や知見、感性を交差させることで、新たな価値を生み出す。「場」と「時間」のシェアで創造性を高める。私が coworkingスペースでコーヒーを入れる時間、いつの間にかメイヤーズカフェと名付けられました。

「人」が集い、価値が生まれる。そのため「場」がある。本市は今、そんなまちづくりを進めています。

交通結節点という価値

本市は福岡都市圏にあり、人や物が行き交うための利便性の高さが最大の特長です。JR鹿児島本線、国道3号、主要地方道筑紫野古賀線が走り、九州自動車道のインターチェンジもある交通の要衝。博多駅から約20分、福岡空港から約40分。

福岡市近郊のベッドタウンとして発展するとともに、多くの企業が立地し、工業製品出荷額の食品分野では福岡県内60市町村で2位を誇るものづくりのまちとして知られます。都市近郊型の農業も息づき、「メロンよりも甘い」とされ



白砂青松の美しい海岸線。海・山・川が暮らしのすぐ側に



快生館の coworkingスペースでコーヒーを入れ、語らう



糖度18度以上?! まず生で味わって



春は、イチゴ狩りも人気



ピエトロドレッシングは古賀市で製造!

る「朝どりこがスイーツコーン」や、イチゴの王様「あまおう」、温州ミカンやデコポンをはじめとするかんきつ類、野菜、米や麦などもおいしいと評判。皆さんの食卓に上っているあれも、お土産でもらったそれも、本市で作られたものかもしれません。
近年、この国の考古学会に激震が走る発見が本市でありました。国史跡の船原古墳から500点を



同左（復元CG画像）



国宝級玉虫装飾の馬具
（船原古墳の出土品）

超える金銅製の馬具などが掘り出され、朝鮮半島との交流を強く示唆するものとして注目を浴びています。玉虫の装飾を施した逸品など「全国初」が続々と確認されており、現在、国の重要文化財、さらには国宝の指定に向けて調査・分析を進行中。なぜ、こうした物がこの地で見つかるのか。

人と人のつながりがあったからです。江戸時代にも参勤交代の道だった唐津街道の青柳宿が置かれており、古来より現代に至るまで、古賀という地は「人」が行き交う「場」がつくられてきていた歴史があり、それが文化を生み出し、今につながってきました。

過去と現在を結び 持続可能なまちへ

中心市街地のJＲ古賀駅西口商店街。市内外から多くの人が訪れる酒屋の角打ちから少し歩いたその先では、若者たちの歓声が上がっています。音楽教室をリノベーションして生まれ変わらせた



るるるのシェアキッチンでお酒を飲みながら懇談

「るるる」というちょっと風変わりな名前の建物には、おしゃれなバル、スコーンとアクセサリー、パンと雑貨のお店、洋服のリフォーム店、すてきな写真屋さんやピアノ教室、ドローンの事業者さんまで入っており、加えて大きな特長がシェアキッチンを備えていること。これからカレー屋さんを始めようという人、すでに別の地でお店を展開しているキッチンやコーヒー屋さん、短大で食を学ぶ学生さんなど多様な「挑戦者」とそのお客さんたちが入れ替わり立ち替わり訪れ、お互いに交流し、これからの展開を生み出しています。「場」があつて、「人」が生きる。時代の変化が速く、価値観が多様化する時代。人と人がつなが

り、共に歩み、複雑化、多様化する社会課題を解決していきたいと思えます。それが持続可能な社会につながるはずで。そのためには、きっかけが必要で、それを生み出すための居心地の良い場所があつてほしい。今の本市のまちづくりは、歴史と風土、文化に根差しながら、イノベーション（革新）を起こし、持続可能性を高め、「未来への責

プロフィール

- ◆ 面積 42・07km²
- ◆ 人口 5万9268人
- ◆ 世帯数 2万6950世帯

〔将来都市像〕ひと育つ、こが育つ、人がまちを支え、まちが産業を支え、産業が人を支え、みんなが育つ、未来に向かって育ち続けるまちへ

〔まちの特徴〕チルドレンファーストを掲げ、ジェンダー平等や性の多様性への促進にも取り組む、人にやさしい、みんなが主役のまち



古賀市長
田辺一城



〔特産品〕朝どりこがスイーツコーン、山見阪ネーブル、あまおう、焦がし商品（焦がし醤油、こがし蛸、こがしプリンばあむ）
〔観光〕薬王寺の湯、興山園、コスモス広場、古賀グリーンパーク、古賀海岸
〔イベント〕まつり古賀、古賀モノづくり博「食の祭典」、なの花祭り、土曜夜市、古賀放生会

任」を果たすことを理念としています。そのためには、多様な人材の「掛け算」、公民連携で新たな価値を生み出す、すなわち私たちの暮らしを取り巻く課題を解決することが求められます。キーワードは「共創」。これからも、市民の皆さん、このまちに関わってくれる皆さんと共に、誰もが快く生き、幸せを実感できるまちづくりを進めていきます。

※面積は国土地理院「全国都道府県市区町村別面積調」に、人口・世帯数は「住民基本台帳」による。